

## 「トラホーム」病元菌研究報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/38399">http://hdl.handle.net/2297/38399</a>

十全會雜誌

(第五十六號)

原著及實驗

●「トラホーム」病原菌研究報告

特別會員 河野 勇

「トラホーム」病が傳染性疾患ニ屬シテ結膜ヲ侵襲シ進メテ幾多ノ慘害ヲ逞フシ遂ニハ失明ノ不幸ヲ招クニ至ルコトアリ經過永ク治癒ノ困難ナルコトハ古來既ニ定論アリ特ニ本邦ニ於テハ都鄙至ル所ニ蔓延シ學生其他ノ青壯男女ヲ襲撃シ酒々トシテ際涯ナカラントス隨ツテ當局者ガ百方豫防及治療ノ手段ニツキ苦心スル所アルモ惜井カナ經過ノ綏愜ナルト經費ノ多額ヲ要スルト衛生思想ノ欠乏及本病ノ害毒ヲ冷視スルタメ豫防ノ一端ヲモ實行スルコト至難ニシテ之ヲ實際ノ統計ニ徵スル時ハ(一遍ノ儀式的統計報告ハ未ダ信ヲ措クニ足ラズ)恐ラクハ數ノ減少ヲ來タスコトナキハ殊ニ遺憾トスル所ニアラズヤ加之本病ノ元因トシテハ未ダ識者ノ確認ヲ得タルモノアルヲ聞カズ「フツクス」氏嘗テ曰ヘリ「トラホーム」ニ關シ學者ノ記載スル所漸次増加シ方今ニ於テハ眼病中其比ヲ見ザルニ至レリ然レモ憾ムラクハ未ダ病ノ本態ヲ明カニシ衆論ヲ一定スルノ確説アルヲ聞カズ而シテ諸學士各自ニ其分類及名稱ヲ造リ錯雜極リナシ云々又「ポルト」氏ハ曰ク實ニ「トラホーム」ノ診斷ハ混亂ノ有様ナリ故ニ現時學問ノ程度ニテハ「トラホーム」ヲ診斷スルニハ尙不定ナリ況ンヤ一ニ元論オヤ是ヲ以テ「トラホーム」ノ診

(原著及實驗)

斷ヲ充分明白ニ誤ラザル如クナスニハ吾人ニ定見ナシト是畢竟「トラホーム」ノ元因不明ナルニヨリテ起ル所以ナリト信ズ故ニ本病ノ元因ヲ確認シ得ンカ診斷及治療上一新革命ヲ來タシ幾分治癒ノ時期ヲ早ムルニ庶幾カラシ即チ本病態ノ根元ニツキ研究ヲ遂ゲンコトハ吾人ノ義務ナリト信ジ余ハ敢テ斯ル至難ノ問題ニツキ之ヲ公ニシタル所以ナリ

余未ダ淺學寡聞ニシテ深ク涉ラズト雖「トラホーム」病ノ本態トシテ殊ニ細菌學上今日ニ至ル迄確定シタルモノアルヲ知ラズ之ヲ二三ノ文籍ニ徵スルニ結膜ノ疾患就中「トラホーム」患者ニツキテ細菌學的診斷ノ必要ヲ認メ歐米大家ノ諸報告中結膜病ノ細菌學的診斷ニツキ記載スル所アリ本邦ニ在リテモ漸次着目スルニ至レルハ國家ノタメ慶賀スル所ナリ

マイエルホリフ氏 Meyerhof (千九百〇三年—千九百〇五年)ハ埃及「カイロ」ニ於ケル急性化膿性結膜炎ノ三百例ヲ臨床的及細菌的ニ検査シタル成績ニヨルニコソホウィークス氏菌 Koch-Weeks'sche Bacterien 百五十七ナイセル氏淋毒菌八十モラツクス、アクセンフヘルド、ペーテルス氏重桿菌 Bacteria Morax-Axenfeld-Peters 三十七フレンケル氏肺炎菌十ヲ發見シ三百中半ハ同時ニ「トラホーム」患者ナリシト云フ

以上諸菌中コソホウィークス氏菌ハ「インフルエンザ」菌ニ酷似ス又全然同一ナリト云フモノアリ本菌ニ依ル結膜炎ニ在テハ強度ノ分泌物ヲ呈スル腫張性加答兒ノ如キ症狀ヲ來タシ稀ニ角膜ノ合併症ヲ來タスコトアリ多クハ毒法硫酸亞錳硝酸銀水等ニヨリ短時ニ治癒スルモノナルガ各年齡期ニ高度ノ傳染性ヲ有スルヲ以テ甚シキ流行ヲ來タシ埃及及北米合衆國ニ於テハ殆ンド常ニ夏期ニ流行スト云フ本邦ニ於テモ平野氏ハ本病ニツキ記載シテ曰ク此種類ノ炎症ハ從來流行性眼炎ト稱シ一家族中一人本病ニ罹ルモノア

(原著及實驗)

レバ全家老幼男女子論ぜズ侵スモノニシテ最も急性ニ經過シ甚著シキ障害ヲ呈ス故ニ患者多クハ醫治ヲ乞フモノナリ此ノ如キ結膜炎ニテハ眼瞼結膜著シク腫脹シ球結膜又甚シク血管注入ヲ來タシ粘液膿様或ハ極メテ菲薄ナル義膜樣分泌物ヲ生スルノ特性ヲ有スルモノニシテ此義膜樣分泌物中ニハ常ニコツホ、ウイークス氏菌ヲ發見スル者ナリ此ノ如キ結膜炎ハ時トシテ「トラホーム」ノ經過中ニ之ヲ見ルコトアリト氏ハ又曰ク急性顆粒性結膜炎即チ急性「トラコーマ」ナルモノハ慢性ノ經過ヲ取ルベキ通常ノ「トラコーマ」ト一種其性状ヲ異ニスルモノニシテ多クハ分泌物中ニコツホ、ウイークス氏菌ヲ發見スルモノナリ之ニ因テ之ヲ見レバ此種ノ結膜炎ハ混合傳染ノ結果ニ依ルベキモノナルハ疑ナキガ如シ急性「トラコーマ」ニシテニコツホ、ウイークス氏菌ヲ認メタルモノハ其經過甚佳良ニシテ急性炎ノ經過スルト同時ニ數月間持續セル「トラコーマ」ノ顆粒悉ク吸收セラレテ消散スルモノナリ然レモ再三試檢スルモ此種ノ菌ヲ發見セサルモノニ於テハ其經過至テ宜シカラズ數週ヲ經テ急性炎ノ症狀ハ鎮止スルモ「トラコーマ」顆粒ノ多クハ依然トシテ殘留スルモノナリ故ニ通常急性「トラコーマ」ト稱スルモノハ十中八、九ハニコツホ、ウイークス氏菌ノ混合傳染ニ依ルモノト其一部ハ不明ノ原因ニヨルモノト二種ノ別アルガ如シト

肺炎菌性結膜炎ハ好シテ小兒ニ來タリ時ニ流行性ニ現ハル、モノナルガ故ニ「トラホーム」トシテ傳ヘラル、コトアルモ多クハ良性ニシテ粘液乃至膿性ノ分泌物ヲ生ズル所ノ急性炎ニシテ上表ニ義膜ヲ形成スルコトアリ又往々球結膜モ侵サル、コトアリ然カモ一、二週間ニシテ治癒スルモノナリ

カアスパリニ氏ハ陳舊「トラホーム」ガ肺炎菌ノタメ屢々急性加答兒性刺戟症ヲ來タスコトアルヲ報ゼリ

モラツクス、アグセフエルド氏重桿菌性結膜炎ハ觸接傳染性ニシテ屢々「トラホーム」ニ合併スルコトアルモ「トラホーム」ニハ類似セズ「トラホーム」流行地ニテハ往々之ト混同スルコトアリペーテルス氏及ミユルレル氏

ハ「トラホーム」ト合併スルコトアリト云ヒツール子ツテン氏ハ「トラホーム」五百例中癩痕期ニ於ケル十九例中二本菌ヲ發見スト云ヘリ本邦ニ於テモ數年來本菌ニコル結膜炎ノ報告アリ本菌ハ多クハ「カプセル」ヲ有セズグラム氏法又ハワイゲル氏法ニテ完全ニ脱色スル重桿菌ニシテ多クハ好シテ連鎖狀ヲナス然カモ顆粒ノ形成ヲ欠キ結膜ハ滑澤若クハ僅カニ乳嘴ノ腫起ヲ來タシ且最特異ナルハ眼險殊ニ内角ニ於ケル潮紅ニシテ硫酸亞鉛水ノ點眼著效ヲ奏スルコトアルニコルト云フ近時「プロフエツソール」グレイフ氏ハ細菌學者フロツシユ氏ノ助力ヲ得テ著手セル「トラホーム」罹患結膜ノ細胞及ビ分泌ノ特有ナル所見ニ就テ報告セルガソノ所見ハ不易ニシテ今日ハ「トラホーム」病原體ハ遂ニ發見セラレタリト確言セリ其要ニ曰ク此「トラホーム」病原體ナルモノハ甚ダ不規則ナル球狀體ニシテ世ニ知ラレタル最小ノ球狀體ヨリモ更ニ著シク小ナルモノニシテギームザ氏液ニハ著明ニ染色シ或時ハ紫堇色ノ勝ルコトアリ或時ハ赤色ノ勝ルコトアリ「アニリン」色素ヲ以テハ著色微弱ニシテグラム氏法ニテハ全ク染色セズ而シテ著シク透明ナル暈ヲ以テ周擁セラル最強度ノ廓大ヲ以テ觀ルトキハ時トシテ極メテ鮮明ニソノ正球形ナラズシテ寧ロ隅角ヲ亡ヘル細菌ノ如ク稍楕圓形ヲ呈スルヲ見ル又ソノ往々現ハル、所ニヨリテ重球菌ノ如ク二個相聯合スル傾向アルコトヲ推知スベシ「トラホーム」小體ハ全ク此性質ヲ有セサル所ノ白血球ニ於テ見ルガ如キ「エオザン」ニ染色スル分核ト誤ルコトナキヲ要ス尙ホ後期ニ於テハ稍々大ナル量ニ密集シ多クハ細胞内ニアリテ所謂聚簇體ヲ呈ス予等ハ該成形物ヲ濾胞ノ内容ニ於テ或ハ遊離シ或ハ細胞内ニ又上皮下ニ且ツ牽線性分泌物中ニ遊離シテ之ヲ發見セリ然カモ該成形物ハ之ヲ闡明スルコト容易ナラズ予等ガ此核子ヲ常ニ確實ニ反覆シテ發見シ且ツ他ノ核子形成ト區別シ得ルニ至レル迄ニハ餘程ノ作業ヲ要セルコトニシテコハ今日ト雖尙其要アリ故ニ爾後ノ研究者ハ假令吾人ノ軌範ニ則リテ之ヲ行フモ每常確實ニ之ヲ表示シ得ルモノトハ保シ難シ且ツ檢査ニハ新鮮ニシテ未ダ

治療ヲ施サレザルモノナラザルベカラズ一、二日硫酸銅桿ヲ以テ治療サレタル後ハ忽チニシテ未ダ「トラホーム」ノ治療如何ヲ問フニモ至ラズシテ已ニ「トラホーム」小体ヲ塗抹標本上ニ示ス能ハザルニ至ルコトアリ是恐ラクハ小体ノ表面ノミ消失シテ再ビ深部ヨリ發見シ來ルコトヲ証スルニ足ラン此小体ハ罹患粘膜ノ表層ヨリ削取セル上皮ニ就テ觀察スルチ最モ容易ナリトス大体ニ於テ先ヅ餘リ過大ナル決斷チ此所見ヨリ爲サバランコトヲ勤ム久シク探求セラレタリシ「トラホーム」病元体ノ明ラカニ發見セラレタルコトヲ以テ足レリトスベシ尙ホ「トラホーム」小體ナルモノハ從來ボーゼン、ペルリオン、ケーニヒスベルク及ウエストフアーレンニ於テ德國ノ「ドクトル」、レーベル、日本ノ宮下、露ノクリユウテ子ルノ諸氏ニ由テ發見セラレタリキ。「ドクトル」、アー、レーベル氏モ「トラホーム」ノ九〇%以上ニ該成形物ヲ發見シタリシガコハ獨リ「トラホーム」ニ於テノミ見ルモノニシテコノ疑問ニ解決ヲ與フル所ノ樞石ナリト附言シタリ要スルニ氏ハ此「トラホーム」小体ヲ以テ「トラホーム」ノ病元体タルコトヲ確言セルモ未ダ動物體ニ移植シテ之ヲ証明セズ且ツ常ニ「トラホーム」患者ノ新鮮ニシテ未ダ治療チ施サレザル場合ニノミ存スルモノナルコトヲ明言セリ然カモ單ニ一、二回ノ硫酸銅治療チ施セルコトニヨリテ斯ノ如ク容易ニ「トラホーム」病元体ノ存在チ減少セシメ其毒勢チ薄弱ナラシムルモノナルカ多少ノ疑ナクンバアラズ

余ハ昨年來「トラホーム」ノ病元体ニツキ聊カ興味ヲオキ研究スル所アリシモ未ダ充分所信ニ達スルコトナカリシガ本年二月ニ至リ遂ニ一種ノ細菌ヲ檢索スルコトヲ得タリ依テ以下其一端ヲ記述セシ

余ハ先ヅ次ノ四種ノ方法ヲ以テ本菌採集ノ材料ニ供シタリ

第一、三%硼酸水ヲ以テ「トラホーム」患者ノ眼水結膜及眼球結膜ヲ能ク洗滌シ次テ千倍昇水ニテ數回結膜面ヲ擦過シ再ビ殺菌蒸餾水ヲ以テ洗滌シ豫メ紅燧殺菌セル白金線ヲ以テ顆粒ヲ穿破シテ其内容ヲ採リ

(原著及實驗)

直チニ準備セル培養基ニ接種ス

第二、前法ニ準ジテ「トラホーム」患者ノ結膜面ヲ能ク消毒セルノチ煮沸消毒シタルクナツプ氏「トラホーム」滑車ニテ顆粒ノ内容ヲ搾出シ之ヲ白金線ニ取りテ培養ス

第三、「トラホーム」患者ノ結膜等殊ニ穹窿部ヲ前法ニ從ヒテ充分ニ洗滌シ次テ煮沸消毒セル剪刀ヲ以テ結膜ノ一部ヲ顆粒ト共ニ切除シ再ビ之ヲ千倍昇水中ニテ再三洗滌セルノチ殺菌蒸餾水中ニ投ジテ再ビ能ク洗ヒテ此切片ヲ各培養基ニ移植ス

第四、前法ニ從ヒ「トラホーム」患者ヨリ結膜ト共ニ顆粒アル切片ヲ取り昇水水中ニテ能ク洗滌シ再ビ殺菌水中ニ放置シ二十時間ヲ經過セルノチ此液ノ二乃至三白金耳ヲ採取シテ培養基ニ移植セリ

以上方法ノ一乃至四法ヲ撰ビ試験ニ供セルモノハ左ノ如シ

姓名	性別	年齡	病名	成績
エ、ウ、	男	十二年	トラホーム 水胞性結膜炎	十
ホ、コ、	男	廿一年	トラホーム	十
サ、マ、	男	十一年	トラホーム	十
オ、ゴ、	男	十年	トラホーム	十
オ、ケ、	男	九年	トラホーム	十
オ、ヨ、	女	十年	トラホーム	十
ア、ト、	女	十二年	トラホーム	十
ミ、マ、	女	十二年	疑似トラホーム	十
ア、ヒ、	男	十一年	疑似トラホーム	十
セ、フ、	女	十年	結膜炎再診上 疑似トラホーム	十
コ、ツ、	女	廿二年	陳臼トラホーム及パンヌス ニシテ癩痕ヲ有ス	十
イ、マ、	女	十六年	トラホーム及 小胞性結膜炎	十

(原著及實驗)

右ハ「トラホーム」トシテ數週乃至數ヶ月間治療ヲ受ケタルモノナリ

尙ホ比較ノタメ檢索セルモノハ次ノ如シ

- ハ、ヤ、女 生后 角膜炎瘻及
- ト、フ、女 六十四日 單純結膜炎
- コ、ウ、女 廿四年 格布布性結膜炎
- 廿八年 健康ノ結膜

注意(十)ハ試験ノ成蹟陽性タルコトヲ示シ(一)ハ陰性タリシコトヲ示ス  
 本菌ハ一種ノ短桿狀菌ニ屬シ兩端鈍圓ニシテ中央部僅カニ隱凹ス時トシテ  
 ハ甚ダ小サク恰カモ球狀菌ノ觀ナナスコトアリ多クハ單獨ニ存スルモ時ト  
 シテハ二個相連接シ稀ニ三個連鎖スルコトアリ回轉、突進又ハ波浪狀ニ運  
 動ス菌體ノ一端ニ一條乃至數條ノ鞭毛ヲ有ス(六條マデ檢スルコトヲ得タ  
 リ)千倍ノ昇永水ヲ注グ時ハ多クハ須臾ニシテ運動ヲ停止スルモ二十時間  
 半ヲ過グルモ尙ホ蠢々トシテ運動ヲ持續スルモノアリ本菌ノ蒸餾水中ニ在  
 ルモノハ百日間生活シ「グイヨン」培養基中ニテハ能ク百九十日間以上活力  
 ナ持續セリ普通ノ「アニリン」色素ニヨリテ能ク着色スルモ中央部ハ着色困  
 難ニシテ兩端濃染スグラム氏法ニヨリテ脱色セズ長サ〇、〇〇一二五乃至  
 〇、〇〇二五密迷幅〇、〇〇〇七五乃至〇、〇〇一密迷ニシテ好氣性菌ニ屬  
 ス攝氏十四―十五度ニテモ發育スルモ二十度及以上ノ溫度ニ能ク發育ス  
 「ゲラチン」扁平培養 圓形白色ノ小「コロニー」ヲ生ジ恰カモ塵埃ヲ撒布  
 セル如クニシテ灰白色ノ小點數多發生ス鏡檢スルニ不正圓形ニシテ中心ハ  
 輪狀ニ濃密ニ周圍ニハ次第二淡ク外圍ハ再ビ濃密ニシテ次第二周圍ハ淡層  
 トナリ恰カモ木輪狀又ハ葵ノ種子ノ如キ觀アリ帶褐色ヲ呈ス培養後十四時  
 間ニシテ僅ニ溶解シ初メ爾后次第二溶解増進ス但シ液化ノ度ハ室溫ノ高低  
 ニ正比ス挿標標本ヲ製シ換スル時ハ中心核樣ニ密集シ漸次周圍ニ擴布シ網  
 狀ニ蔓延スルヲ見ル可シ

「ゲラチン」穿刺培養 接種后十七時間(溫ノ高低ニヨリテ多少ノ差アリ  
 即チ常ニ室溫ニ放置セルヲ以テ溫度一定セズ以下準之)ニシテ穿刺線ニ沿

ヒ灰白色絲狀ノ混濁ヲ呈スルモ培養基ノ表面ニハ穿刺痕ノ外何等ノ異常ヲ  
 認メズ二十四時間ヲ經テ穿刺部ニ幅斜頭大灰白色ノ混濁ヲ來タシ側面ヨ  
 リ見ル時ハ稍々漏斗狀ニ隱沒スルヲ見ル可シ是「ゲラチン」ノ液化ヲ初メタ  
 ル徵ニシテ四十三時間后ニハ液化次第ニ増進シテ皿狀隱凹シ細菌ハ灰白色  
 ノ雲片トナリテ沈降シ初ム六十七時間ノ后ニハ溶解ノ度漸ク進シテ試驗  
 管壁ニ達シ溶解部ハ微ニ綠色ヲ呈ス八十九時間后ニハ液化スルコト約一仙  
 迷ニシテ上部約三分一ハ淡綠色ニ輪狀ニ染ミ螢光樣ノ光ヲ有ス然レモ此色  
 素ハ本菌特有ノ產物ニハアラザルガ如ク在々之ヲ欠クコトアリ液面ニハ微  
 細粉末狀ノモノ浮遊シ色素ノ下層ハ透明ニシテ細菌ハ輪狀ニ白色ノ集團ト  
 ナリテ下方ニ沈降ス百十三時間ニテハ溶解面上ニ非薄ナル灰白色ノ膜樣物  
 即チ菌膜ヲ造リ綠色著明ナル爾后時日ヲ經過スルニ從ヒ遂ニ全ク液化シ  
 綠色又消失シ細菌ハ多ク管底ニ沈下ス

寒天斜面培養 接種后二十四時間ノ後小圓形ニシテ露滴樣灰白色ノ光澤  
 アル「コロニー」ヲ生ジ劃線ニ沿フテ霧ヲ吹ケルガ如シ四十三時間ノ后ニハ  
 以上ノ「コロニー」ハ次第二周圍ニ蔓延シ濕潤粘稠ナル稍厚キ苔トナリ帶狀  
 ナ呈シ鉤スルニ縷ヲ引ケリ六十七時間后ニテハ已ニ斜面端ニ進ミ爾后二十  
 二時間ニハ益々蕃殖シテ厚サト廣サヲ増シ凝固水トノ界ハ帶褐色ヲ呈シ  
 多クノ細菌ハ斜面底ニ白色トナリテ沈降セリ

馬鈴薯培養 本培養基ニ接種セルヨリ十三時間后ニハ塗抹部ニ小露滴狀  
 ノ光澤ヲ有シ濕潤セル「コロニー」ヲ生ジ三十二時間ノ後帶黃灰白色ノ露面  
 ヲリ稍隆起セル粘稠ナル苔ヲ生ズ五十六時間ノ后以上ノ「コロニー」ハ漸次  
 増殖蕃延シ且ツ厚サヲ増シ中央部ハ稍々褐色ヲ帶アルニ至リ圓形ノ「コロ  
 ニー」ハ練狀又ハ不正ニ集簇シテ肉芽狀ヲ呈シ遂ニ周圍ニ擴布シ黃褐色ト  
 ナリ后チニハ褐色ヨリ稍々紅色ヲ帶アルニ至レリ百五十六時間后ニハ汚穢  
 褐色トナリ濕潤ト粘稠性ヲ保テリ

「アイオン」培養 接種后二十四時間ニシテ上部稍々混濁ヲ呈シ細菌雲絮

片トナリテ凝集シ后ニハ全「アイオン」混濁シテ表面ニ菲薄灰白色ノ菌膜ヲ形成シ細菌ハ基底ニ沈下セリ

牛乳培養 本菌ハ能ク牛乳中ニ蕃殖スルモ之ヲ凝固セズ本菌ハ以上記述セル如ク室溫ニ於テ最ヨク發育ス併シ新タニ患者ヨリ採集セル時ハ發育稍緩慢ナルモ培養基ヨリ之ヲ轉培スル時ハ速力ニ發育スルモノ、如シ即チ前者ニテハ時トシテ(室溫ニ放任セルコト前記ノ如シ)十日間ヲ要セルコトアルモ后ニテハ二日間ノ後已ニ完全ニ發育セリ

余ハ尙「アイオン」ニ培養セルノチ四十八時間ヲ經過セル者ノ十分ノ一五ヲ雌雄各「モルモット」ノ穹窿部ニ又十分ノ三瓦ヲ犬ノ球結膜下ニ注入シタリシガ注射后三時間ニ雄雄ニ雌「モルモット」ハ上下眼瞼及ビ眼球結膜共ニ發赤腫張シ角膜周擁充血アリ眼脂ノ分泌アリ犬モ又同ジク充血ヲ來タシ眼脂分泌著シク三者孰レモ注射后少シク倦怠ノ傾キアルモ食欲變化ナク暫時ニシテ常態ニ復セリ爾后五十四時間ニシテ驗球結膜共ニ充血殆ンド消失セリ爾來日々檢スルコトヲ得ザリシガ接種后六日ニ各「モルモット」ノ穹窿部ニ細小ナル圓形帶紅灰白色乃至帶黃灰白色ニシテ僅カニ透見シ得ベキ顆粒發生セルヲ見タリ尤モ又久シク檢スルコトヲ得ズ(五月九日接種ス)九月廿六日ニ至リ檢セシニ兩眼上下眼瞼ノ結膜穹窿部ニハ殊ニ著シク數多ノ帶黃紅灰白色ノ顆粒發生シ尙球結膜及驗結膜ニモ散在性ニ存スルヲ見タリ(驗結膜ニテハ類圓形移行部ニテハ卵圓形ヲ呈ス)十月十二日該犬ノ眼分泌液ヲ懸滴法ニヨリ檢索セシニ運動セル本菌ヲ見染色標本ニテモ陽性ノ成績ヲ得タリ依テ更ニ此分泌液ヲ取り「ゲラチン」穿刺法ニヨリ培養シタルニ二十一時分間ノ后穿刺線ニ沿フテ灰白色ノ混濁ヲ現出シ培養后四十九時間ニシテ穿刺部ノ液化ヲ初メ穿刺表面ハ僅カニ凹陷シテ肌狀ヲ呈シ細菌ハ血底部ニ沈降ス(攝氏十八—二十度)。鏡見上陽性ニシテ九十八時間ニテハ液化ハ進テ管壁ニ達スルニ至レリ(攝氏十六度)尙ホ以上ノ雌「モルモット」ニツキ第四法ニヨリ試驗シ寒天斜面培養基ヲ用井テ陽性成績ヲ得タリ

(原著及實驗)

今本菌ヲ既記二三ノ細菌及「トラホーム」小体ニ比スル時ハ左ノ如シ  
(1) 肺炎桿菌ハ不動性ニシテ鞭毛ヲ有セズ通氣性嫌氣性ニ屬シ「ゲラチン」ヲ液化セズ

(2) 本菌ハ運動性ニシテ鞭毛ヲ有ス好氣性ニシテ「ゲラチン」ヲ液化ス  
コッホウイクス氏菌ニヨル結膜炎ニテハ堯法硝酸銀水硫酸亞鉛水ノ點眼等ニヨリ短時ニ治癒ス之ヲ「インブルエンザ」菌ト全然同一ノ者ナリトセバ流行性感胃菌ハ不動菌ニ屬シ鞭毛ナクグラム氏染色法ニヨリテ脱色シ最好溫度ハ攝氏三十七度ニシテ二十六度以下ニテハ發育困難ナリ尙人工培養ニ在リテハ十四日乃至二十日間滅菌水中ニテハ僅カニ三十二時間生存スルノミ又普通培養基ニ發育セズ

(3) 本菌ニヨル結膜炎ニテハ前述ノ療法ニ抵抗スルコト強ク慢性ノ經過ヲ取リテ容易ニ治癒セズグラム氏法ニヨリテ脱色セズ普通培養基ニテ攝氏十四—十五度ノ溫ニテ尙能ク發育シ培養后百九十日間以上生活シ殺菌鹼水中ニ在テモ百日間ヲ經過シ尙生存セリ

(4) アクメンフェルド氏重桿菌ハグラム氏又ハワイゲル氏法ニヨリテ完全ニ脱色シ好ンデ連鎖狀ヲナス結膜ニハ顆粒ノ形成ヲ欠ク硫酸亞鉛水ノ點眼ニヨリ容易ニ治ス

(5) 本菌ハグラム氏法ニヨリ着色シ結膜ニ顆粒ヲ形成シ治癒困難ナリ  
淋毒菌ハ普通培養基ニ發育セズグラム氏法ニ脱色シ鞭毛ナク不動性ナリ本菌ハ全ク之ニ反ス

(6) 「トラホーム」小体ハ「アニリン」色素ニテハ着色微弱ニシテグラム氏法ニテハ全ク染色セズ檢査ニハ新鮮ニシテ未ダ治療サレザルモノナラザル可ラズ

本菌ハ普通ノ「アニリン」色素ニ容易ニ着色シ疾患ノ新舊ニ拘ラズ檢出シウベシ

尙本菌ト能ク類似スルモノハ綠膿菌ナリト雖乙ニ在テハグラム氏法ニ

(原著及實驗)

脱色スルヲ以テ異ナリトス

一千八百九十九年バリノー氏 Parmand ニヨリ報告サレタルバリノー氏結膜炎ナルモノアリト雖本病ハ角膜ヲ侵サズ他眼ニ及バズ數週乃至數月ノ内ニ結膜ニ跡ヲ殘サズ治スルモノニシテ細菌學上比較ヲ要スベキモノニアラズ又結核梅毒等ト鑑別ヲ要スルモノアルモ甚シキ類似ノ点アルヲ見ズ煩ヲ避ケテ茲ニ論ゼズ

以上ノ所檢ニヨリテ本菌ハ恐ラクハ「トラホーム」ノ病元体タルコトヲ推知シ得タリト信ズ若シ果シテ然ラバ「トラホーム」ナルモノハ一種ノ細菌即チ「トラホーム」菌ニヨリテ起ル傳染性ノ眼疾病ニシテ慢性ノ經過ヲ取り結膜ノ腺組織ニ炎性浸潤ヲ來タシ顆粒ヲ發生シ乳頭ノ肥大増殖次テ結膜ノ癢痕ヲ形成シ角膜組織ノ炎症性變狀ヲ將來スルモノナリト云フヲ得ベキカ然カシテ尙探究スベキ事項尠シトセズ余ハ本ト井底ノ痴蛙ニ過ギズ今ハ唯其一斑ヲ報シ敢テ諸賢ノ批判ヲ乞ハント欲ス幸ニ指教ヲ蒙ラバ豈只ニ余一人ノミノ幸福ニ止マランヤ終リニ臨ミ本菌ノ探求ニ關シ相當便宜ヲ與ヘラレタル同僚窪田房吉氏及恩師金澤醫學專門學校村土教授ニ對シ深ク感謝ノ意ヲ表スル所ナリ。(完)

● 早期月經ニ就テ

特別會員 諸橋 林太郎 (横濱)

夏山ノ綠未ダ遠シ春花ノ紅ヲ向ヒ愛鳥ハ美音ヲ奏シテ以テ吾人ノ眼ヲ慰メ心ヲ樂シマシム此ノ時ニ當リ女子ノ天華漸ク開キ今ヤ生殖器其作用ヲ全フスルノ時期ヲ報シテ止マズ即チ月信トナリテ茲ニ見エ來ル而シテ之レガ初潮年齡ニ關シテハ東西諸家ノ先聲已ニ調査ヲ遂ゲ書卷ニ記載セラル、所ナリ然レモ余亦蛇足ヲ顧ズ月信早發性ニ來ルモノ即チ早期月經ニ就テ少シク論及セント欲ス

早期月經 Menstruatio pnceox ノ來ルヤ勿論氣候土地風俗人情入種教育ノ如何並ビニ生活ノ情態或ハ體質職業等ニ因リテ一定セザレモ本邦婦人ニ在リテハ十一歳乃至十二歳ニシテ初經ヲ見ル事アリ是ガ原因トシテ數フベキ者ハ諸説アリト雖思フニ吾人ハ病の現象其ノ主因ヲナス者ト認ムズンバアラズ今是レヲ違學スレハ曰ク卵巢ノ腫瘍、手淫、腦水腫、佝僂及ビ諸他ノ惡液質等之レニ屬ス尙泰西諸家ノ説ヲ揭ゲ併セテ諸君ノ評ヲ待タン

H. Fritsch (Jap.) 氏曰ク早期月經ナルモノハ巴三才乃至四才ニシテ之レヲ見ルト雖斯ガル小兒ニアリテハ亦多クハ病の關係存ズルヲ免レズ然レモ健康ナル小女ノ九才乃至十才ニシテ天華ヲ開クハ實ニ早發性ト云フベシ Klemm 氏曰ク Oophoria ナルモノハ月經ノ來潮ヲ速進セシムル作用ヲ有スルガ故ニ若シ Oophoria 類似ノ物質小女ノ体中ニ發生早期ニアルト有ラシカ卵巢ハ此ノ時ニ當リテ急速ナル發育ヲ遂ゲ以テ月經ノ早發スルヲ見ルニ至ルハ免カレ能ハザル所ナリ然レモ亦腫瘍ノ卵巢ニ存スルカ或ハ手淫ヲ行フコトアル時ハ兩者共ニ兒体ノ血行ヲシテ變調ニ陥ラシメ爲メニ化學的物質ヲ製造スルガ故ニ早熟セル卵巢ヲ認ムルニ至ルベシ

Max Runge 氏曰ク早期月經ナルモノハ實ニ少女ノ凡テノ年齡ニ於テ見ルト雖モ又稀有ナル場合ニアリテハ最初ノ生月即チ生后第一週ヨリ之レヲ認ムレモ多クノ場合ニアリハ八才乃至九才ニシテ來ルモノトス亦地理的ニヨリテ異ナルハ巴三才知ル所ナルモ吾人ノ地方即チ Berlin ニアリテハ十二年以前ニ初マリテ多少ノ出血ヲ來シ尙正規的ニ休止ス而シテ乳房ハ佳良ノ發育ヲ伴ヒ外生殖器ハ陰毛ヲ以テ掩ハレ加之ナラス骨盤ハ亦成熟シタル女子ノ形態ヲ示シ且ツ内生殖器モ之ニ適合シテ發育ス故ニ二人之レヲ稱シテ早期月經ト云フ

Noake (Berlin) 氏ハ手淫ニ依リテ來レル本症ノ一實例ヲ掲ゲテ曰ク生后四才ノ小女ニシテ正規ヲ以テ經月ハ來潮シ且ツ經時ニ於ケル主訴ヲ併有ス即チ全身倦怠食慾減少並ニ下腹痛ヲ伴ヒ爲メニ四週毎ニ床上ニ臥ス而シテ